



中川村立 中川中学校

自分の興味関心をとことん追究

フリーラーニング(探究的な学習)



地域の方とともに学ぶ「フリーラーニング」

中川中学校では、2023年度から総合学習の時間の中でフリーラーニング(探究的な学習)として個人でテーマを決め追究していく時間を設定しました。生徒自身の「やってみたい!」を大切にしたい活動で、地域の方々がサポートスタッフとして関わっています。

フリーラーニングはキャリア教育の一環であり、「社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成を通して、自分らしい生き方の実現を促す活動」として捉えています。毎年中学校を会場に開催される中川村キャリアフォーラムでは、村や近隣市町村の事業所がそれぞれの仕事の内容、製造物等を紹介するブースを設け、中学生は興味のあるところを自由に回ります。地域の方との結びつきを強めるとともに、働くことについて考える機会となっています。

北海道中川町立中川中学校との交流

同名の縁で、姉妹町村提携している北海道中川町の姉妹町村提携をきっかけに、中川町立中川中学校との交流を続けています。2024年度の夏休みには33人の生徒が体験学習交流団として北海道中川町を訪問。中川町の中学生とも交流し、ポッチャやモルックの競技をしたり、お互いの地域の魅力などを紹介しあったりするなど、良い関係を築くことができました。秋には中川町の中学生が来校し、親睦を深めました。

中川村新たな学校づくりプロジェクト進行中!

中川村では、「美しい村・中川村」を再発見し、自ら楽しみ、次世代につなげる「みんなの学校」を目指し、小中学校を統合した新たな学校づくりプロジェクトに取り組んでいます。2024年度は「中川村新たな学校づくり委員会」が組織され、小中学校児童生徒会の正副会長らによる子ども部会も立ち上がり、子どもたちからの意見も積極的に取り入れ、基本計画策定に向けた検討を進めています。

中川村立 中川中学校 HP



福祉教育のポイント

探究することで今まで気づけなかった地域の資源をたくさん掘り起こしてください。それは、形あるものばかりではなく、伝統文化やまつり、地域の人たちの知恵や技、地域の助け合いなども含まれます。

野沢温泉村立 野沢温泉中学校

ふるさと野沢温泉を担う人材へ

「地域のもの・ひと・こと」と関わり、深める探究活動



地域と関わり、3年間を通じた探究活動

野沢温泉中学校の総合的な学習の時間では、『ふるさと野沢温泉を担う人材へ』をテーマに、「地域のもの・ひと・こと」と積極的に関わりながら、3年間を通じた長期的な探究活動を行っています。

2023年度卒業の生徒たちは、3年間継続して「サイダー」「フォトスポット」「遊具」の各プロジェクトの活動で得た収益を村や地域のために使ってもらいたいと卒業後に村に寄付をしています。

幼保小中一貫教育「野沢温泉学園」の取り組み

近年はインバウンドによる外国人観光客が増加している野沢温泉村は、スキーと温泉の恵みを生かした観光立村であり、村の特長を活かした「魅力的な学校」づくりのため幼保小中一貫教育・高校連携教育を行っています。2013年からはのぞわ保育園、野沢温泉小学校、野沢温泉中学校を合わせた「野沢温泉学園」が開園しました。学園通信として発行している「山毛樺(ぶな)の子 野沢温泉学園だより」は、学園の取り組みや子どもたちの様子について紹介しています。「山毛樺の子」とは、ブナ(村木)の若葉のごとく、力強くたくましく伸びてほしいとの願いが込められています。

学園職員は、「ふるさと学習」「英語学習」を核として「交流体験学習」「スキー学習」などのワーキングチームによって運営・活動し、学園授業研究会(年2回)、夏期学園研修などを開催し、授業の質の向上を目指しています。

「海と山の子交流」と海外中学生との交流

「御宿の子どもが野沢へスキーに。野沢の子どもが御宿へ海水浴に」と千葉県御宿町の御宿中学校との「海と山の子交流」は1976年から始まりました。姉妹都市提携を結んでいるオーストリアのサンクト・アントン(アルペンスキー発祥の地)との交流では、隔年で代表生徒が親善訪問を続けています。また、スキー学習がつかない縁で台湾の中学生との交流も行い、絆を育んでいます。

野沢温泉村立 野沢温泉中学校 HP



福祉教育のポイント

地域の方々と活動をすると新たな発見があると思います。そこで考えたことや想いを他の人にわかりやすく伝えること、ぜひチャレンジしてみましょう。想いを形にしていく一歩になります。